

こんにちは。皆様、いかがお過ごしですか？寄稿してもらいましたよ。じっくりと考えて。  
お笑い番組とカレーが好きなのは、年末のテレビ番組「M1グランプリ」を毎年楽しみにしています。この番組の醍醐味はもちろん漫才なのですが、2016年は「審査員」、特に「採点方法の公平性」に注目が集まる大会でした。以下、ネット記事（一部抜粋）で面白いものを見つけたので紹介します。

\*\*\*\*\*

「M-1 グランプリ 2016」採点データ徹底分析。上沼恵美子の採点が明暗を分けたのか  
エキサイトレビュー 2016年12月5日 10時00分 井上マサキ

審査員全員が頭を抱えた。12月4日放送の『M-1 グランプリ 2016』（テレビ朝日系列）。エントリー総数 3503 組から勝ち抜き、最終決戦に残ったのはスーパーマラドーナ、和牛、銀シャリの3組。激戦の結果、チャンピオンに輝いたのは芸歴 11 年目の銀シャリだった。



5人&関東不在の審査員

今年の M-1 審査員が発表されたのは、なんと当日の朝 5 時。その顔ぶれは松本人志、上沼恵美子、オール巨人、中川家礼二、博多大吉。

(中略)  
ただ、5名という人数の少なさは気になった。1人の点数のウェイトが高くなり、同点も2度起きている(カミナリとスリムクラブ、アキナとハライチ)。

(中略)

上沼相談員は鍵を握っていたのか？※現文ママ「相談員」としています(詳しくは「バラエティー生活笑百科」)。

M-1 初の審査員5人体制、どんな採点結果になったのかを表にまとめた。太枠がその審査員がつけた最高点、影枠が最低点。平均点と標準偏差(点数のばらつき)も併せて算出している。

		巨人	礼二	大吉	松本	上沼	合計
ファーストラウンド	アキナ	92	89	89	87	89	446
	カミナリ	91	90	90	89	81	441
	相席スタート	87	88	87	84	90	436
	銀シャリ	96	91	93	95	95	470
	スリムクラブ	85	89	88	90	89	441
	ハライチ	91	88	89	85	93	446
	スーパーマラドーナ	90	95	92	89	93	459
	さらば青春の光	87	90	90	90	91	448
	和牛	95	95	91	93	95	469
最終決戦	スーパーマラドーナ		○				
	和牛				○		
	銀シャリ	○		○		○	
	最高点	96	95	93	95	95	
	最低点	85	88	87	84	81	
	平均点	90.44	90.56	89.89	89.11	90.67	
	標準偏差	3.468	2.543	1.792	3.315	4.055	

※ルールについて  
ファーストラウンドでは「審査員の合計点」  
最終決戦では「審査員の票の多さ」  
で勝負が決まる。

上沼恵美子がカミナリにつけた「81点」が強く印象に残っている人も多いだろう。2組目とまだ序盤の段階で、他の審査員に比べてかなり低い水準の点数である。これは上沼恵美子の採点が今回のキーに……と思ってしまいが、データを見ると実はそうでもない。

上沼恵美子の採点は、カミナリの81点を除けば全て89~95点に収まっており、他の審査員の振れ幅とほぼ同じ。

標準偏差は5人の中で最も高い値だが、これも81点が大きく響いたもの。平均点も他の審査員と大きく差があるわけでもない。カミナリの81点さえなければ、上沼相談員の採点は丸く収まっていると言えるのだ。しかしあの81点、強めのツッコミがいけなかったのだろうか？

(中略)

また、初めての審査員で緊張のあまり顔面蒼白の状態が登場し、隣の松本人志から「合成樹脂みたい」とイジられていた大吉先生は、標準偏差の低さから慎重に点差をつけていたことがわかる。平均点が89.89点なもの、1番手のアキナにつけた89点をきっちり基準に置いた結果ではないだろうか。

全体的に見て、誰かが特別に採点を引っ張っていたわけではなく、それぞれが最高点をつけたコンビが最終決戦に進むという順当な結果だった。最終決戦3組が終わったあと、審査員達は天を仰ぎ、Twitterのタイムラインでは優勝予想が割れた。松本人志も「今までで一番僅差じゃないかな」と振り返る。この順当さ、悩ましさの源はもちろん、出場者のレベルが全て高かったからこそだ。

(以下、略)

\*\*\*\*\*  
※標準偏差(ひょうじゅんへんさ)とは・・・数値の《振れ幅》として説明されているように、直感的にはうまく言い当てている表現です(数学科の先生すいません)。

上沼恵美子相談員の「81点」という低すぎる点数(とコメント及び映像から伝わる存在感)のために、「上沼恵美子の採点が勝負に大きな影響があった」という印象を視聴者が受けていて、当時話題(もちろん番組を視聴した人の中で)になっていました。

ところが、「必ずしもそうとは言えない」という主張を数値データで分析・展開していたので、単なる感情論やポピュリズムに偏りがちな記事等とは異なり、客観的で説得力があるなぁと感心しました。

世の中、意外と「印象」のみで判断する(される)ことが多いです。それも大事なときもある(最終的な決断の際などは特に)のですが、自分の頭で考え、データを取捨・選択・処理し、「最適解」としての自分の主張や意見を冷静に見出すことを迫られることもある、と、私は考えています。